

理念を貫き、
進化する。

「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」を建学の精神に掲げ、1881年に「東京物理学講習所」として創立された東京理科大学。140周年を迎える今、明治期の文学から垣間見ることができる当時の熱気と、日本の科学技術の黎明期からその発展に貢献してきた歴史を振り返る。

志に燃えた明治期の若き理学士の夢を未来へつなぐ。

$C_2H_2O_2N_2 + NaOH = CH_4 + Na_2CO_3 \dots\dots$
 蒼白^{ムド}い白熱^{ムド}瓦斯^{ムド}の情調^{ムド}が曇^{ムド}硝子^{ムド}を透^{ムド}して流^{ムド}れる。角窓^{ムド}のそのひとつの内部^{ムド}に光^{ムド}のない青^{ムド}いメタン^{ムド}の焰^{ムド}が燃^{ムド}えてるらしい。
 肺病院^{ムド}の如^{ムド}な東京^{ムド}物理学^{ムド}学校の淡^{ムド}い青^{ムド}灰色^{ムド}の壁^{ムド}にいつ^{ムド}しかある^{ムド}かなさ^{ムド}かの月^{ムド}光^{ムド}がしたる。
 ※北原白秋「物理学学校裏」より一部抜粋

明治期の文学に見る 「東京物理学学校」の熱気と情熱

1881(明治14)年、理学の普及を目指す平均年齢25歳の若き理学士21名により創立された「東京物理学講習所」(東京理科大学の前身)。2年後、東京物理学学校に改称、1906(明治39)年には、牛込神楽坂に木造2階建て白亜の校舎を建設した。後の神楽坂キャンパスである。

当時の神楽坂界隈には多くの文学者が住んでおり、物理学学校のすぐ裏手には北原白秋や泉鏡花の自宅があった。冒頭の詩は、北原白秋の『東京景物詩及其他』に収められている「物理学学校

裏」という詩の一部である。白秋宅を訪ねた石川啄木は「白秋の家では物理の音が琴と三味線と共に聞こえる」と日記に残している。

また、夏目漱石の小説『坊っちゃん』の主人公は、東京物理学学校の卒業生という設定だ。主人公は一度も落第せず3年で卒業したことになるが、当時の物理学学校はとても厳しく、進級・卒業するのが難しいという社会的な評判を踏まえ、たうえでの人物設定だったとも考えられる。



『坊っちゃん』の原稿(複製)

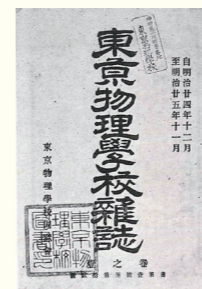
21名の若き理学士の情熱によって創立された物理学学校

北原白秋の「物理学学校裏」からは、夜学で学ぶ当時の学生と教える教師たちの熱気が伝わってくる。

21人の創立者たちは、昼は官庁や学校で働き、夜は講習所の教員となって無給で授業を行っていた。学校経営の資金は授業料のみ。不足分は創立者たちが捻出して賄った。彼らは故郷や国から支援を受けてエリート教育を受けたことに大いに恩義を感じていた。そこで「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」という精神のもと、進取の気性をもって学校を創立したのだ。

受け継がれる創立の精神。 明治期に生まれ、そして未来へ

日本における科学技術の黎明期、創立者たちは建学の精神に基づく強い信念と情熱のもと、全国の学校に優れた理数系の教員を多数輩出し、



『東京物理学学校雑誌』巻之壹 (1891年発行)

理学の普及に大いに貢献した。1888年に創立者14名が参加して編纂した『物理学術語和英仏独対訳字書』や『東京物理学学校雑誌』の発行をはじめ、中等学校用の数学教科書を数多く執筆し、日本における理学の普及を推し進めてきた。

また、初代校長は東京天文台の初代台長を務めた寺尾壽、さらに世界で初めて乾電池を発明した屋井先蔵や、私学

出身者初の理学博士となった小倉金之助などを輩出。初代学長の本多光太郎は1916年に当時世界最強の永久磁石だったKS鋼を発明、日本の工業界に大きな貢献をした。さらに2015年には本学大学院出身の大村智が私学出身者初のノーベル賞(ノーベル生理学・医学賞)を受賞。最近では理工学部の木村真一研究室が開発した小型カメラが、小惑星探査機「はやぶさ2」に搭載され、小惑星着陸時の撮影に成功するなど、宇宙分野でも活躍している。

現在では、7学部32学科、7研究科30専攻を有する日本随一の理工系総合大学へと成長した東京理科大学は、2021年6月14日、140周年を迎える。次の10年、その先の未来に向けて、創立者たちの情熱を受け継ぎ、よりよい未来を創造し続けていく。

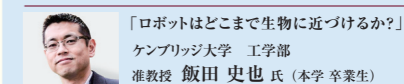
東京理科大学 創立140周年記念講演会

オンライン開催

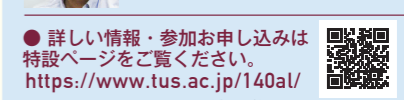
開催日: 2021年6月26日(土)
14:00~16:00
開催形態: zoomウェビナー
参加方法: 事前申し込み必要(専用フォームから)



招待講演 「半世紀の研究を振り返り、コロナ禍に思う -基礎科学の大切さと魅力-」
東京工業大学 栄誉教授
2016年ノーベル生理学・医学賞受賞
大隅 良典 氏



「ロボットはどこまで生物に近づけるか?」
ケンブリッジ大学 工学部
准教授 飯田 史也 氏 (本学 卒業生)



「インフルエンザウイルスの病原性発現機構とワクチン開発に関する研究」
東京大学医科学研究所感染症国際研究センター
准教授 一戸 猛志 氏 (本学 卒業生)

● 詳しい情報・参加お申し込みは特設ページをご覧ください。
<https://www.tus.ac.jp/140al/>
お問い合わせ 東京理科大学 広報部広報課
TEL 03-5228-8107 koho@admin.tus.ac.jp



1906年、神楽坂に完成した東京物理学学校校舎

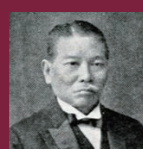
東京理科大学の歴史

1881年(明治14) 東京物理学講習所設立広告を郵便報知新聞に掲載



「郵便報知新聞」に掲載された東京物理学講習所の設立広告

1883年(明治16)年 東京物理学学校と改称



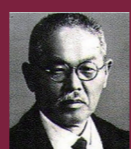
屋井先蔵

1887(明治20)年 屋井先蔵は炭素棒にパラフィンを含浸することで、世界で初めて「乾電池」を発明。



屋井乾電池 平角二号

1906(明治39)年 神楽坂に新校舎が完成。理学研究の「先駆的存在」として受講生が全国より集結。「落第で有名な学校」として世に知られるようになる。



初代学長 本多光太郎

1949(昭和24)年 東京理科大学設置認可(理学部第一部・第二部)。東京理科大学として新たな一歩を踏み出した。

1960(昭和35)年 薬学部を新設。
1962年 工学部を新設。
1967年 理工学部を新設(千葉県・野田キャンパス開設)。
1976年 工学部第二部を新設。
1987年 基礎工学部を新設(北海道・長万部キャンパス開設)。
1993年 経営学部を新設。

1996(平成8)年 私大初の「連携大学院」を発足。

2013(平成25)年 葛飾キャンパスを開設。

2015(平成27)年 1963年に本学大学院理学研究科修士課程を修了し、1970年に理学博士号を取得した大村智がノーベル生理学・医学賞を受賞。

2021(令和3)年 大学発ベンチャー企業数は私学1位。増加率も全大学でトップ(2020年度 経済産業省調べ)。

社会と科学の動向

1882年 ロベルト・コッホ 結核菌を発見
1888年 東京天文台設置 初代台長 寺尾壽

1890年 第一回帝国議会
1894年 北里柴三郎 ペスト菌を発見
1895年 ヴィルヘルム・レントゲン X線を発見

1906年 夏目漱石「坊っちゃん」を発表
1915年 アルベルト・アインシュタイン 一般相対性理論を発表

1929年 アレクサンダー・フレミング ペニシリンを発表
1939年 第二次世界大戦

1969年 米国、アポロ11号人類初の月面着陸に成功
1970年 日本万国博覧会(大阪)開催

1994年 向井千秋 日本人女性として初の宇宙飛行
2018年 小惑星探査機はやぶさ2小惑星 Ryugu に到着



東京理科大学
TOKYO UNIVERSITY OF SCIENCE

140周年
記念サイト▶

